

認定特定非営利活動法人 日本雲南^{れんぎ}聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区三谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便さん

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社

Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第55号 特別号

発行日 2015年(平成27年)11月15日

会
報2015/8/19
~8/29第3回日本雲南大学生交流スタディツアー
日本開催報告第三回日本雲南大学生交流スタディツアー
第三屆日本云南大学生交流研習營活動2015

2015年8月19日(水)~8月29日(土)に「第3回 日本雲南大学生交流スタディツアー」を開催いたしました。日本雲南聯誼協会の「アジア未来への人材プロジェクト」の一環として行われている当ツアー、第3回目となる今回は、初の日本開催となりました! 東京都内、長野県青木村を舞台に学生たちが青木村でできる地域活性化プランを提案。日本側からは4大学4名が参加し、雲南側からは協会と提携する4大学を含む6大学から12名の学生が参加、日本・中国合わせて16名の大学生が事前学習を通じて「地域産業」「環境・観光」「教育」「医療・福祉」の4つのチームに分けられました。

これまでのスタディツアーでは地域住民とのコミュニケーションのなかから社会貢献を考えてきましたが、今回は住民の方々の声だけではなく、地域外から移住してきた方が取り組んでいる社会問題などもヒントに青木村における地域活性化プランを提案。オリエンテーションやフィールドワーク、村の人たちとの交流を通じて青木村について学び、各チームがプラン作りにも挑みました。

青木村役場、地域おこし協力隊、農家、青木村にて事業展開されているなど、村の多くの方との協力があつたからこそ形になった今回のスタディツアー。学生たちに大きな影響を与えたのは「人との出

会」でした。雲南、日本学生との出会い、青木村に住む方との出会い、海外から青木村へと移住してきた方との出会い。様々な出会いから価値観の違いを学び、学生たちの青木村への愛情も芽生えていきました。

実際に訪れるまでは、「知らなかった」土地。それが自身の目で見て、話を聞いて、体感して、身近な土地へと変わっていったのです。この経験が学生たちを大きく成長させ、地域活性化プランの創造にも熱が入っていきそうです。「この村が好きだから、村の魅力を多くの人に伝えたい!」という地域創生の原点にたどり着いたスタディツアーとなりました。

Schedule

東京・長野県青木村での活動日程

- 8/19(水) 雲南学生が北京経由で東京へ!
- 8/20(木) 雲南学生と日本学生が初対面! 技術評論社5Fにてオリエンテーション、アイスブレイキングやワークショップを通して交流を深める。昼食後は、「地域活性化センター」&「農産NAGANO」を訪問。
- 8/21(金) チームにわかれて都内で自由行動。江ノ島やお台場に行ったチームも。
- 8/22(土) 協会15周年 記念式典に参加。
- 8/23(日) 青木村へ移動。青木村婦人部が地元の食材を使った夕食とともにお出迎え!
- 8/24(月) 青木村役場にてオリエンテーション。バスで村内を見学。チームに分かれたワークセッションで翌日の行動計画表を作成。
- 8/25(火) 4つのチームに分かれて青木村でフィールドワーク。夜は農民太鼓を体験!
- 8/26(水) 「第1回 青木村国際シンポジウム」に参加。夕方には、青木村から東京へ移動。青木村とのお別れに涙。
- 8/27(木) 発表会前日。各チーム、夜遅くまで資料作成を頑張りました!
- 8/28(金) いよいよ発表会当日! それぞれが考えた地域活性化プランを発表。質問・意見をぶつけ合います! 夜は、会員の皆さんを交えて懇話会を開催。
- 8/29(土) 早朝の便で雲南へ帰国。



参加者・ご協力者一覧 (敬称略・順不同)

【日本】小形 紗友花(大妻女子大学)、
小林三葉(宇都宮大学)、木下 千尋(専修大学)

【雲南】謝曉璐(雲南大学)、金秀茹、林瑜怡、尹德芬(雲南師範大学)、
文家豪、王年、包紹、罗夢雲(雲南民族大学)、銭綺云(雲南大学滇池学院)、楊紅云(雲南財經大學)、張思睿(北京現代音楽学院)

【協力団体】

長野県青木村役場、農産NAGANO、一般財団法人地域活性化センター、青木村農民太鼓保存会、青木村住民の皆様、青木村婦人部、NPO法人グリーンズ本社株式会社、株式会社リソーニティ、みなみのパン工房、日本農業大学、雲南大学、雲南師範大学、雲南民族大学、雲南大学滇池学院、株式会社技術評論社

【協賛財団/公益財団法人/任意財団/民間財団】

【特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会】

東京支部 理事長 初鹿野恵蘭、副理事長 堀内 有紀、理事 林 明樹、小嶋 聡、青木村支部 初鹿野恵蘭、理事 堀内 有紀、副理事長 堀内 有紀、理事 林 明樹、小嶋 聡

【協賛企業/個人】

中田 隆一、長瀬 雄一郎、中田 隆一、長瀬 雄一郎



毎回恒例の
スタディツアー
チャットを今回も作成!

長野県青木村でフィールドワークを実践！ 学生ならではの自由な発想で地域活性化 を考える！

…ところで、青木村ってどんなところ？
北村村長に聞いてみました！



長野県 青木村長
北村 啓夫氏

皆さまこんにちは。この度、ご縁ありまして「第3回日本芸術大学学生交流スタディツアー」の開催地となりました長野県青木村長の北村と申します。

青木村は、長野県の東部上田市と松本市を結ぶ国道143号の中間に位置し「青木三山」と呼ばれる南の天狗(おみ山)、北の子龍嶺(おまゆみ山)、西の十軒(じゅっかん山)に囲まれた自然豊かな農村です。

鎌倉時代には、都から東北を結ぶ東山道が通っており、開運鳥・平安時代といわれる田沢・香掛2つの温泉(環境指定の国民保養温泉地)と国宝大正三倉塔(1333年建立)に象徴される「い」で湯と文化の郷です。また、当村限定栽培の蕎麦「タチアカネ」は、白い花びらと赤い果皮の花が可憐で、食べては蕎麦のほのかな甘みと風味が評判で石臼挽きにこだわり提供しています。

豊かな自然、文化そして歴史が青木村の魅力です。今、鎌倉時代・大化の改新後の7世紀後半から10世紀ごろまでを指す

地域おこし協力隊や現地NPOの方々の 活動を通じて、様々な問題解決を模索しました。

青木村で活躍する
地域おこし協力隊！

「地域おこし協力隊」って？

人口減少や高齢化などに悩む地方自治体が都市住民を受け入れ、地域活動に従事することで、その地域への定住・定着を図りながら地域の充実・強化を目指す取り組みです。



1 観光客誘致を推進する上田市出身のセントー・宮城さん(写真左)
2 観光客誘致を推進する上田市出身のセントー・宮城さん(写真左)
3 農業振興プロデューサーとして活動を進める小松市出身の小林さん(写真中央)

学生たちが青木村の魅力を生かして
面白いことを考えているという
ウサダよ

環境・観光チーム

チームリーダー
小林 三葉

メンバー・小林 三葉、橋本 紅花、野澤 芳、朱思 希



今回、スタディツアーを通して得たことは、「Life is short and World is small」の言葉に凝縮されているように思います。様々なコミュニティで内と外が心地よく溶け合い、それぞれの思いを分かち合うことが出来たなら、世間はどれほどおもしろくなるだろう。そんな思いに胸が高鳴る9日間でした。

私たちは、フィールドワークを通して青木村の自然環境と食文化に魅力を感じました。そこで、「食文化・観光・留学生で青木村を活性化」のようプランを提案しました。日本に留学している学生に青木村でファームステイをしながら村の食材を使った新しい料理を考えてもらい、ステイ先の村民と共に料理コンテストに参加、優秀な作品は村内の料理店でメニューとして採用されるという内容で

す。「青木村の魅力を生かして面白くできること」を考えたというウサダよ

国境を越えて 地域住民の 皆様と新しい 協働体制を 考える

医療・福祉チーム

チームリーダー
周 瑞怡

メンバー・木下 千尋、岡田 悠、松崎 雄、謝 瑞怡



私たち医療・福祉チームは青木村でフィールドワークを行い、それについてプランを考えました。それは青木村で行われている「地域住民交流イベント」や「地域おこし協力隊」は協働で進められているというプランです。地域住民交流イベントは、青木村社会福祉協議会という団体が、ひとり暮らしの高齢者の方々や、日々の生活の中で困っている方を地域で支え合い、困りごとを解決するという事業です。

産業への従事、住民の生活支援などの「地域活動」を行う。それについてプランを考えました。それは青木村で行われている「地域住民交流イベント」や「地域おこし協力隊」は協働で進められているというプランです。地域住民交流イベントは、青木村社会福祉協議会という団体が、ひとり暮らしの高齢者の方々や、日々の生活の中で困っている方を地域で支え合い、困りごとを解決するという事業です。

教育・文化チーム

チームリーダー
包 蘭

メンバー・小形 紗友、金 秀、包 蘭、王 聖



今回のスタディツアーに参加したことは貴重な経験となりました。初めて日本へ行ったこともあり、日本にいた10日間はずっと興奮しっぱなしでした。私に比べて、特に印象に残っていることが2つあります。ひとつは協会の15周年記念式典です。日本企業の数々が協会の発展に貢献をたくさん感じることができました。もうひとつは日本文化の体験です。農民太鼓を実際に叩かせてもらったことによって日本の伝統文化に、これまで以上に興味を持てるようになりました。

「文化チームは地域活性化プランをつくりました。人口減少が問題となっている青木村において、姉妹都市間のツアーや農民太鼓の巡回公演など、村の外の交流を増やしていく、青木村の魅力や外部に発信していくというものです。私たちはそれによって青木村に移住してくる人を増やすことを提案しました。私は今回のスタディツアーを通して日本語能力だけでなく、探究心を向上させることができたと思っています。本当にありがとうございました。スタディツアーに関わってくれた皆さん、ありがとうございました！」

銀座 NAGANO

銀座にある信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO」。信州ならではの商品を取り入れたショップを併設、信州の魅力をシェアするために、暮らし、自然、文化、歴史をテーマとしたセミナーやイベントも開催。所長である熊谷さんから地域のブランディングやマーケティングについてお話をいただきました。

青木村に行く前に…、東京でもお勉強。
こんな方々に教えてもらいました！



一般財団法人 地域活性化センター

活力にあふれる、個性豊かな地域社会を実現するために、人づくり、まちづくりなど、地域社会の活性化に向けた活動を支えている施設。振興部の福田様から、地域おこし協力隊のことや、地域活性化のケーススタディについてご説明いただきました。



▲協会の経営者様などこれから起こる課題を学びました。

青木村に継承する
伝統文化を体験！



▲道の駅「あさき」にて地元農産物の調査



▲地域情報と行動計画を決めるグループワークセッションは2時間を越えました。



▲みんなで長野名物「おきや」づくりをチャレンジ！(写真1、2)江戸時代から青木村に伝わる「農太鼓」も体験させてもらいました。(1時間15分体験セッションに挑戦！)(写真3、4)

第一回青木村 国際シンポジウム開催

主催：青木村・日本雲南協会

8月26日(水)、青木村で初となる国際シンポジウムが開催されました。「外国から見る青木村」をテーマとして構成された今回のシンポジウムでは、海外から青木村に移住してきた2人がスピーカーに、アメリカから来たジョ・モントーヤさん、シンズ・マーガレットさんが青木村に居住する意味と魅力についてお話ししてくださいました。

シンポジウムでは質疑応答の時間がたっぷりと取られており、学生たちが発言する機会も。最初は緊張していた学生たちも、青木村の方々のお話を聞いていくうちにヒートアップの4日間を感じた青木村の印象を地元の方々にも共有しました。

今回のスタディツアーの中で開催された青木村初の国際シンポジウムは、中国の学生・日本の学生・青木村の村人、そしてスタディツアーのスタッフの皆様で作上げたシンポジウムだったと感じました。学生のみさんの貴重な意見がとても刺激的で、また地域活性化についてのアテナの高さに驚かされました。いろいろな分野で出された皆さんのプランに学びながら、これからの活動をさらに頑張ろうと思います。

青木村のゆるキャラ「アキノコちゃん」を東京・中国へと広めてもらいながら、また近い将来、青木村に遊びに来てもらえたら、とても嬉しいです。お待ちしております！



青木村
地域おこし協力隊の
モントーヤさん



青木村のゆるキャラ
アキノコちゃん



▲ジョ・モントーヤさん。青木村に住む人々と暮らすの良さをお話する



▲元埼玉県議員 都賀 隆一氏も参加



▲シンズ・マーガレットさんと面談するスタディツアー参加者



▲古民家門生を行なっているハワイ出身のマイケルさん



▲大塚より駆けつけてくださった会員の千々岩さん(左端)



▲平日午前中にもかかわらず、大勢の住民の方々が参加され、移住と地域の関係について意見が戦いしました。

最終日地域活性化プラン発表審査会

4チームが考えた地域活性化プランを発表！

8月28日(金)、今回のスタディツアーを通して各チームが考えた地域活性化プランを発表！

真剣な顔で発表を聴く学生たちからは地域活性化に対する熱い思いが窺えました。結果は…青木村で留学スタディツアーの実施を考えた「環境・観光」チームが優秀賞を獲得！

優秀賞には選ばれなかったチームのプランもすぐに入賞を検討できるようなものばかり。学生たちから上って

きたプランはすべて、青木村役場に届けさせていただきます。今後はその案をベースにプラン実現に向けて動いていきます。同時に、2016年8月には中国雲南省でスタディツアーを開催予定。今度は中国の農村を活性化していくためにできることを考えていきます。学生の皆さん、ぜひご参加ください！

審査員(敬称略)・公益財団法人三郷UPJ国際財団 理事 坂 健二朗
審査会幹事 初鹿野 恵 顧問 東郷 浩、理事 林 則幸、会長 久藤 智弘



▲優秀賞に選ばれた「環境・観光チーム」



▲観覧者はサポートも駆けつけ大盛り上がり

雲南の学生による日本語でのプレゼンに審査員も真剣に聞き

雲南の学生による日本語でのプレゼンに審査員も真剣に聞き

第3回スタディツアーを終えて…

お世話になった青木村

建設産業商工観光係

係長 小林 利行様からのメッセージ



初鹿野理事長と林理事、事務局職員の皆さんが初めて青木村を訪れ、ご案内した時を昨日のことのように覚えています。私どもも自然に感動され、お蕎麦に感動され、青木村に感動されてこのスタディツアーの出会いが必然であったと思っています。

日本の大学生と雲南の大学生は、素朴で！真面目で！元気です！私も本当に上手に手伝わせていただきました。

皆さんからいただいた地域活性化プランの実現に向けて、鋭意努力したいと思っています。ありがとうございます。

雲南学生に直撃インタビュー！ はじめての日本は、どうでしたか？

帰国して半月が経ちましたが、正直心の整理がまだできていません。日本への10日間は私にとってあまりにも濃厚な時間でした。

私は、子どもの頃から日本のアニメ、バラエティ、ニュースを見て育ち、日本に対して憧れを持っていました。その憧れが強すぎて日本に行くことを躊躇していたんです。でも、今振り返ると日本に行くことに決めて本当に良かったです。

日本では、たくさんのものを見て、いろんな人に出会えました。初めて日本のエスカレーターに乗ったときには驚きました。皆が左側に立ち、右側を空けて

光景は、中国人の私にとっては不思議でしたが、これは暗黙のルールだということを知ることができました。中国でも小さい頃から右側通行するようにと教育されていますが、実際に乗っていません。日本人の文化、そしてそこに誇りを感じて日本人に感謝しました。

中国と日本は大きく違うという話を耳にしますが、実際はそんなに違いはありません。今回、日本に行ったことはとても勉強になりました。

近い将来、中国と日本が分かち合える日が必ず来ると確信しています。



文豪 (雲南民族大学)

ご協力いただいた皆さま ありがとうございます！



株式会社 リンガ・パット様

お食事提供を寄贈いただきました。中国大学生にとっては、初めて食べる「長城ちゃんぽん」の味に感動していました！



ハウス食品 株式会社様

「フルーチェ」と「どんぐりコーン」「ジャワカレー」などの食品を寄贈していただきました。いつもありがとうございます！



あんのび園「こるぽ」様

長野県須賀市にある「こるぽ」さん。素朴にこだわったパンをみんなに食べてほしい！と、わざわざ長野から送ってくれました！

編集後記

初めての日本開催となった第3回スタディツアー、一つのつながりから、長野県青木村で開催できるとなりました。三方を山に囲まれ、自然と共に生きている青木村。そこで学生たちが感じたことは私たちスタッフが想像していた以上に大きなものでした。人の温もり、自然の豊かさ、伝統的な文化、地方のあり方が見直されている今、私たちにできることは何なのかを改めて考える良い機会になったのではないかと思います。また、今回のスタディツアーは多くの方のサポートにより実現できたものです。ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます。(小堀)